

| ホーム名：くみのき苑 グループホーム千寿 | | | | | |
|----------------------|------|--|--|--|--|
| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 年度替りに理念の説明を全職員に会議を行い、説明を行っている。常勤職員には日々の中で理念を浸透させていくために、常勤会議でより詳しい理念の説明を行っている。今年度はより理念を達成しやすくする為に具体的な目標を定め、取り組んでいる。 | 「認知症であっても、一人ひとりが地域の中で当たり前暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」という理念を各階に掲げており、会議等で職員に説明している。又身近に目指すべき短期目標も定めて全職員で共有するよう努めている。 | 今後も職員が同じ目標を見据えて温かい支援を行なうことで入居者の穏やかな毎日を支えてもらいたい。 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に継続的に参加している。今年度は、自治会の老人会や会館で行われている催しなどにも入居者さまと参加している。また、近隣の店での買物する機会が少ない為、馴染みの店を作れる様に努めたい。 | 自治会に入会して数年経つので、頼りにされる存在にもなり時には相談を受けることもある。地域掃除は入居者も出来る人は一緒にしている。地藏盆、秋祭りに参加したり般若心経と一緒に読むこともある。近所の散歩の時に古くからの土地の人達と挨拶を交わすこともある。 | 職員の努力と長年の交流を通して自治会との関係は上辺だけではない事が感じられる。近所の住民との繋がりを継続する事を期待する。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 河内長野市の認知症コーディネーターとして、管理者と副主任が地域の講演会やキャラバンメイトの活動に参加している。また、近隣の地区の方が担当して広報で、介護についての記事を管理者が担当している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族様からの相談や意見を踏まえて、議題を決めたり、千寿として新しい取り組みなどがあれば、会議の場で説明する様になっている。また、会議で出た意見については、会議後参加していた常勤が集まり、どうしていくのかを話し合い、活かしていける様に努めている。 | 4ヶ月に一度、市の介護高齢課、地域包括支援センターから職員が、また自治会役員や家族の出席で会議が開催されている。事業所からの報告もきっちりされていて、質疑応答も活発に行われている。4ヶ月に一度というのは市からの助言に従っている。 | 市や包括支援センターの職員や自治会の役員との協力で、入居者とその家族が安心して暮らせるようこれからも支援を願う。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。 | 相談や何かあった場合は、すぐに市へ連絡を入れて千寿の状況を理解して貰える様にしている。市の方も、運営推進会議にも毎回参加して下さり、アドバイスなどもして下さる。 | 市の職員は毎回運営推進会議に参加があり、入居相談などきめ細かく協力できる関係を築いている。2ヶ月に1回、河内長野市内でグループホーム部会が開かれ、情報交換や制度についての説明を受けている。 | 市の職員が運営推進会議にも基本的に出席するという積極的なスタンスで、相談もしやすく対応も臨機応変にしてくれているようで有難い。 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる | 身体拘束の勉強会を行なう事や日々の職員のケアについても、リーダーが中心となり、拘束しない方法を指導している。管理者のケアの考えで、身体拘束はしないのが当たり前という考えを基本になっている。 | 事業所前が車通りの多い道路であることもあり玄関は施錠されているが、2、3、4階のエレベーターは自由に乗り降りできるようになっている。出来るだけ注意深く見守ることで、必要以上の拘束はしない。 | 危険を避けるために必要以上の手立てを行なうことは、そこで暮らしている入居者にとっては一概に生活の質の向上とはいえない。窮屈に管理するのではなく職員が見守ることに力を入れるという考え方は素晴らしい。 |
| 7 | | ○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 本部にて常勤対象に勉強会があり、常勤に参加させている。参加して学んだ内容を、現場職員にもユニット会議や日々の指導の中で伝えている。また、職員自身の対応方法を見直す為に、全体会議で演習を行い、個々で考えてもらい、虐待にならない様な意識付けを行なっている。 | | |

| | | | | |
|----|---|---|---|---|
| 8 | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p> | <p>本部での研修に、副主任やリーダーは参加している。また、家族の状況をみて、必要性がある方に関しては、そういう制度がある事を説明している。</p> | | |
| 9 | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約時など、毎回その時に、疑問や不安はないか尋ねる様にしている。特に、難しい事や金額内容などは、細かく説明し、その時に確認している。また、最後に何かあればいつでも連絡頂く様に声を掛けさせて頂いている。</p> | | |
| 10 | <p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>各フロア入口に「意見箱」が設置されているが、要望や苦情は電話や面会時に直接口頭で寄せられる。意見が多いものや全体に関わる問い合わせがあった場合は、運営推進会議時にも返答する様にしている。</p> | <p>苦情や要望は口頭で言われることが多い。苦情、要望があった場合には文書で残している。「家族ノート」の利用、運営推進会議における家族との話し合いも通してその意見を反映させている。</p> | <p>運営推進会議への家族の出席が多いので日頃の面会時も含めてしっかり意見要望は伝えられる風通しの良さがあり、今後も大事にしてもらいたい。</p> |
| 11 | <p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p> | <p>月2回のユニット会議を持ち、意見や要望を聞く機会としている。リーダーが中心となって日頃の支援に対しての悩みや対応について話し合い、改善に向け取り組んでいる。リーダーが収集した意見を副主任や管理者に報告している。</p> | <p>3ユニットそれぞれのリーダーが職員の意見や思いをまとめコミュニケーションを図っている。リーダーはその思いを副主任、管理者へと繋いでいる。ユニットごとの話し合いは「会議録」に残している。</p> | <p>管理者、副主任、各ユニットリーダーのしっかりした指導と見守りの中で経験の浅い職員も個性を大事にしながら成長でき、意見もどんどん出す事ができ、それを反映させられるようなフラットな職場の雰囲気を更に向上させていかれたい。</p> |
| 12 | <p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p> | <p>年2回、人事考課を実施している。その中で、日々の仕事に対しての良い面、改善面両方の話をし、今後どうして行くかを一緒に考えている。あと、職員への感謝や評価を日々の中でも伝えられる様に投票箱を作り実施していく予定。</p> | | |
| 13 | <p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>法人全体での研修があり、職員の状態に応じた研修に、出来るだけ参加して貰う様にしている。また、外部研修なども案内を職員に配布し参加を促している。</p> | | |
| 14 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p> | <p>グループホーム部会を通じて、他事業所との職員の交換研修や、勉強会を行い、交流や意見交換の場を作っている。また、本部グループホームとの意見交換の会議を月1回実施している。法人全体で、数日間、職員交換を行う仕組みもあり、勤務に支障が無い時は、参加している。</p> | | |

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

| | | | | |
|----|--|--|--|--|
| 15 | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p> | <p>ご入居前に本人様に見学に来て頂く機会を作り対応を行っている。その際に、本人様の不安な事等を伺い、ご説明させて頂いている。また安心した関係作りが築いていける様に心掛け、現場で活かしていくよう努めている。</p> | | |
| 16 | <p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p> | <p>事前の施設見学や入所されてからも、本人様や家族様が困っておられる事や心配事、またご希望などをお伺いし、互いに話し合いの場を作るように努めている。</p> | | |
| 17 | <p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> | <p>ご家族様や本人様から頂いた情報は、個人別のセンター方式用紙にて記録を残し、職員への情報共有に努めている。また、ご家族様の面会時等で情報共有を依頼し、お伺いしている。</p> | | |
| 18 | <p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p> | <p>入居者様の1人ひとりの出来る事を見極め、こちらからの一方的な介護・援助にならない様に心掛け対応させて頂いていますが、こちらの都合で一方的援助になっていることも現状ある。我々は入居者様の援助者としての支援を行う指導をしていく。</p> | | |
| 19 | <p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> | <p>本人様やご家族様の両方の気持ちや考えを職員は汲み取り、我々職員は良き理解者になれるように努めている。また、ご家族様の面会時等では、ご様子や状況の報告を行い、安心して頂いたり、お気軽な訪問・面会を呼びかけている。</p> | | |
| 20 | <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | <p>本人様やご家族様から情報収集を行い、可能な限り馴染みの関係にて継続されている入居者も一部居られる状況ではある。ただ、ご家族様からの希望や遠方に居られるなどの都合により、対応不可となるケースが多くなってきている。</p> | <p>若い時にヨガの講師をしていた人には教え子の訪問や共通の趣味を持っていた友達の訪問などもある。また近所の商店、喫茶店の店の人とも顔なじみになり行くと話がはずむ。</p> | <p>認知症が重度化していくに従い馴染みの人との関係継続はある意味困難になることが考えられるが、それをカバーするような新しい出会いや様々な行事を通して支援をしている。今後も温かく、丁寧な支援の継続を期待する。</p> |
| 21 | <p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> | <p>リビングや廊下、またエレベーター前にソファを設置させて頂いており、入居者様同士での共有スペースを多く設け、自由に過ごせる場所の確保に努めている。時々、入居者様同士でのトラブルも見られる事があり、可能な限り職員も一緒に過ごさせて頂いている。</p> | | |
| 22 | <p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>その方の退所時・後もいつでも相談頂けるように、面会やお見舞いを通じて関係性を大事にしている。</p> | | |

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

| | | | | | |
|----|----|---|--|---|---|
| 23 | 9 | <p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>入居者様との日々の関わりの中での訴えや希望にて、現状を理解することが出来るが、まだまだ入居者様個人々々としっかりと向かい合えていない為、関わりの中での情報が少ない。</p> | <p>入居者に寄り添う時に忘れてはならないこと、「言葉そのものを聞くのではなく気持ちを見て」「動作の原因となる思いは何か」、後輩に繋げていきたい副主任の願いであり、リーダーを通して職員に指導している。</p> | <p>入居者の昔好きだったことを知ったり、ストレートに表現するのが困難な人の言葉に隠れた気持ちを大事にしている。高齢者の気持ち、認知症に対する本人や家族の不安を受け止めながら心のこもった支援を続けていかれたい。</p> |
| 24 | | <p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p> | <p>主にご家族様から情報をお伺いさせて頂いている。その情報を他職員にも周知できる様、個別のセンター方式用紙に記録し、共有していく。また、日々の関わりに活かして行くように努めている。</p> | | |
| 25 | | <p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p> | <p>入居者様の状況・様子を日々記録にも残しているが、職員個々に観察能力の違いもある。</p> | | |
| 26 | 10 | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>本人様やご家族様の希望をうかがった上で、月に2回カンファレンスを行っている。その情報を基に職員間で話し合いを行い、介護計画の作成に努めている。</p> | <p>入所時に本人や家族の思い、情報収集をしてアセスメントを作成し1～2ヶ月で不便なこと等をあげ職員で意見を出し合い、面会時の家族の要望や医師の意見を取り入れ基本的に月に2回、入退院等変わったことがあればその都度カンファレンスを行っている。</p> | <p>入居者の事をたくさんの目で見守り意見を出し合いながら介護計画を作成して、少しでも自分らしく生活できるよう支援を続ける事を希望する。</p> |
| 27 | | <p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> | <p>入居者様個々のケース記録は記録しているも、まだまだ気付きや工夫についての記入等職員によっての差があるため、日々しっかりと関わらせて頂き記録が行えるように指導していきたい。</p> | | |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | <p>当法人内の行事や他施設からの行事に可能な限り参加している。法人全体での協力体制も万全であり取り組んでいる。</p> | | |
| 29 | | <p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>地域(鳴尾自治会)の協力もあり、イベント・行事があれば参加させて頂いている。今年より熟年会様のご協力のもと、娯楽サークルで囲碁・将棋のお相手をして下さる方が数名居られ鳴尾会館の方まで地域交流に出掛けている。</p> | | |
| 30 | 11 | <p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>入所前にご家族に説明を行い、本人様や家族様の希望を踏まえ訪問診療かかりつけ医を青山クリニックとして頂いている。それ以外での整形、眼科などの病院も近隣で病院の指定がなければ、職員が送迎を行い、付き添っている。</p> | <p>家族にはかかりつけ医を青山クリニックとして頂き、月2回(入居者によっては1回)の往診を受けている。又くみのき苑診療所による精神科の往診を月2回、訪問歯科の往診を週1回、全員が受信している。受診結果を個別の受診マニュアルに残し、家族へは当日或いは翌日に電話で伝え、申し送りで職員は共有を図っている。</p> | <p>同行職員は記録漏れが無い様医師とよく連携を保ち、又家族には受診結果や経過を必ず報告するなど、不安を残すことが無い様に支援をお願いする。</p> |

| | | | | | |
|----|----|--|--|---|---|
| 31 | | <p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p> | <p>看護師が月～土曜日まで常時デイにいる為、日々の入居者様の状態や変化の報告・相談、また指示を頂き支援を行っている。</p> | | |
| 32 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p> | <p>入院中は家族様や病院関係者からの情報提供にて、本人様のご様子や状態等の把握に努めている。退院時にも、情報を共有しアドバイスを受けている。</p> | | |
| 33 | 12 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>ADLの低下や日々の体調・状況の変化については、ご家族様の面会時や電話連絡にてご報告を行っている。重度化や終末期になると予測した場合、前もって家族様と話し合いの中で決めて取り組んでいる。</p> | <p>重度化した場合や終末期のあり方、重篤な状態に陥った時の対処等は入居時に伺っている。が、その時々で家族や医師と話し合いを持ちながら、家族の思いに副った形で支援を行っている。「看取りに関する指針」は作成されており、看取りの体制は整っている。過去1名を看取っている。</p> | <p>「看取りに関する指針」は作成されている。職員が不安を持ったまま終末期のケアに向かう事にならない様に、理解や心の持ち方などを話し合われておく事も必要と思う。</p> |
| 34 | | <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> | <p>緊急対応マニュアルでの周知や全体会議の場を設け、事故発生時には備えてはいるも、実践力を身につけている職員に差がある状況である。</p> | | |
| 35 | 13 | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> | <p>河内長野市消防署の方の協力のもと、年に2回消防訓練の実施を行っている。今年度は、夜間帯の訓練も実施していく予定。</p> | <p>春と秋に消防と協働で、入居者・1階デイサービス・小規模多機能ホーム参加で訓練を行っている。昨年春の訓練では、1フロアが”点呼をもう少し早く”との指摘を受けた。地震時の対応については各居室出口の確保→リビングに集合(タオルや布団を被る)・待機としている。</p> | <p>消火器による初期消火は、職員全員がマスターしている。災害備蓄品は法人本部で備えているとの事。混乱時を考えると、ホームでの備蓄も重要ではないか。地震時に於ける訓練も今後は大切と思われる。</p> |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|---|--|--|--|
| 36 | 14 | <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p> | <p>1人ひとりの人格の尊重やプライバシーについて、職員へ個々に声掛けのトーンや入居者様との話す距離感・また、人生の大先輩に対しての言葉使い等の説明・指導を行っている。しかしながら、余裕のない受け答えになっていることもしばしばある。</p> | <p>マナー研修やコミュニケーション研修等で学んでいるが、思い遣りに欠けた声かけや対応になってしまう時もある様である。排泄表記入時や排泄用品を入れる袋の未使用等、排泄支援時での対応にもう少し努力が要ると管理者は感じている。</p> | <p>研修での成果を発揮し、今後の支援に繋がりたい。プライバシーの観点からも、排泄時に使用する入れ物袋は大いに活用されたい。</p> |
| 37 | | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p> | <p>入居者様1人ひとりにニーズが違う中、可能な限り自己決定(入居者様による選択)、支援させて頂いているも、職員側の都合によりこちらが決めつけた対応になっている事も多い。</p> | | |
| 38 | | <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>入居者様のその人らしい暮らしに添える様にケアプランに基づいたケアの努力は行っているが、職員都合で動いている姿が多々ある。その方々が1日の内で安心の出来る生活(入居者様の事を大切に思っ頂ける様な声掛け)や、少しでも満足して頂けるケアが今後とも課題である。</p> | | |
| 39 | | <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p> | <p>毎起床後の静養時に髪の毛を整えさせて頂いたり、その方らしい衣服選びや身だしなみのオシャレに関し可能な限り支援を行っているもこちらが決めつけた支援も多々ある。</p> | | |
| 40 | 15 | <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>今年度新たに、入居者様との食事作りについての目標を立てており、入居者様と一緒に準備・調理・片付けを行っている。しかしながら、こちら都合で動いていることも多くあるのが現状。まずは、入居者様1人ひとりに本日の献立の紹介を行い、少しでも興味・関心のある形での支援・お声掛けより取り組んでいる。</p> | <p>本部管理栄養士の指導を受け、各フロア、職員が入居者の希望を入れ献立を作成し入居者と共に作っている。トロミ食・ミキサー食の方も数人おられ、ソフト食を提供する場合もある。入居者との共同作業に重きを置き、食事作りを重要視している。</p> | <p>入居者と協力しながらの食事作りは役割分担や共同作業という点で好ましい事であるが、毎日がそれに囚われない様に、生活の充実との兼ね合いも考えながら行って欲しい。</p> |
| 41 | | <p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p> | <p>日誌やケース記録また、申し送りにて食事量や水分量の把握を行っている。その他、全職員で2週間ごとの献立メニューを考え、実施させて頂いているも、栄養摂取の重要性の理解不足の職員が多い。</p> | | |
| 42 | | <p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p> | <p>入居者様の状況に応じて、毎食後口腔ケア支援に努めている。また、歯科Drからのアドバイスを受け、可能な限りは清潔保持援助に努める。</p> | | |
| 43 | 16 | <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p> | <p>入居者様1人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に定期的に声掛けやトイレへのご案内・支援に努めており、個別の排泄方法にて対応を行っている。</p> | <p>各入居者の排泄表を基に、声かけや誘導を行なっている。行きたがらない場合は他の職員に代わったり時間をずらすなどして誘導している。入居して後失禁が無くなったり、パットからパンツに、紙オムツからリハパン・パットになどと状態が良くなっている。</p> | <p>声かけや誘導に配慮しながら個人個人に合った支援を、同時に、気持ち良い排泄空間となる様トイレの衛生や掃除にも配慮されることを今後も願っている。</p> |
| 44 | | <p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p> | <p>便秘の原因や影響についてのメカニズムについて理解できている職員が少なく、食事でのバランスや適度な運動量の確保等にまで結びつかない事が職員によって差があり指導を行っている。</p> | | |
| 45 | 17 | <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p> | <p>時間帯としては11時頃から夕食前頃までの中で、入浴間隔の空いている方からを優先でご案内し支援を行っている。状況や入居者個人の希望があれば優先させて頂くこともある。</p> | <p>1週間に平均2回の入浴である。入浴剤の使用や職員も一緒に入ったりと、楽しい入浴に心掛けている。無理強いせず、清拭などで清潔を保っている。父の日には男性入居者・男性職員、男同士で大風呂入浴を楽しんだ。</p> | <p>一人で入浴できる方にも見守りはしっかり行って頂きたい。入浴時は身体の変化や気持ちのあり様などを観察する良い機会である。会話を楽しみながらも貴重な時間と心得、支援に当たられたい。浴室(天井も)の結露や換気にも十分気を配りながら、気持ちの良い入浴の提供をお願いする。</p> |

| | | | | |
|----|--|--|--|---|
| 46 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人様の状態やご様子に応じて対応を行っているも、リビングでの傾眠時等、ベット静養での休息して頂く声掛けが少ないのも現状あり、現場での指導を行っている | | |
| 47 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様個人の薬説明書や薬管理袋内での個人手書き説明書があるにも関わらず、確認・理解出来ていない職員が多いのが現状ある。 | | |
| 48 | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々のケアプランでの取り組み内容には入れさせて頂いているも、本人様に対してこちら都合の時間帯提供であったり、忙しいとの理由により実施できていないケースもある。 | | |
| 49 | 18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 本人様の希望での外出やカット、必要に応じての買物などすぐに対応できる様にはなっている。しかし他入居者受診や対応などで人手が少ない時などは、こちらの都合に合わせてもらっている事がある。 | 日常的な散歩は1人対1人、多くても2人対2人で、安全な外出を心掛けて行っている。法人主体の催しに参加したり、花見や鯉のぼり外出、買い物外出など外出の機会は多い。秋には家族参加の小旅行もあり、昨年はユニット毎に東大寺・天王寺動物園に車で出掛けた。 | 外出を心掛けていても、外に出たがらない入居者が多いとの事。法人主体の催しが多いので積極的に参加して、外出の楽しみを多く持って頂きたい。日常的に外気に触れる習慣で、季節を感じたり足腰の鍛錬や皮膚を丈夫に保つなど入居者に合わせての外出支援を続けられたい。 |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居時にご家族様、本人様へ説明させて頂き金銭の所持は自己管理でのご理解を頂いている。現在2F入居者様の中で金銭を所持されている方はいない。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | ご家族様への協力のもと、こちらより入居者様個人へ大切な方への電話の促しや手紙のやり取り出来る環境作りに努めている。 | | |
| 52 | 19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングや廊下等季節に応じた装飾物を作ったり、掲示したりを入居者様と行っている。しかし毎年パターンが一緒の事が多いので、改善に努めていきたい。 | ネームプレートを含め各フロア、其々に趣向を凝らした展示や装飾である。掃除は入居者と職員が一緒にする他、ディの職員が送迎のない時間帯に毎日行なっている。エレベータ前の小空間・リビング・リビング脇の廊下にソファが置かれ、離れて寛げる場所も確保されている。掃除機は音が大きい事から、使用していない。 | リビング横の和室（居間）が物置部屋となっているフロアもあり、非常に残念である。運営推進会議や家族来訪時にも使える様な空間に変身出来ている事を、次回の外部評価時には期待したい。居室を含め、衛生管理に重点を置いた掃除をお願いする。 |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやベンチを多く設置する事でゆっくりできるスペースを確保させて頂いている。今年度、新たなソファを購入し使用して頂いている。 | | |
| 54 | 20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様が自宅で使用されていた家具や馴染みな物をご持参使用して頂き、可能な限りの本人様にとって馴染みな物を設置して頂くことよっての安心感に繋げていきたいと考えている。また出来る限り家族写真を貼らせて頂き家族と繋がっていると思ってもらえる様に努めている。 | 洋室の他、和室も各フロア設置されている。昨年の評価を受けて後殺風景な居室の見直しを図り、家族に写真を持ってきて頂き飾ったところ、それによって入居者と職員との会話が増えたとの事である。 | 居室の見直し・改善により、入居者との話題も増えたとの事。天気の良い日はベッドパッド等を干すなどして、寝具類の衛生にも気を配られたい。 |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 職員が入居者様に対し過剰に手を出しているケースが多くあり、都度指導は行っているも改善されていない。見守りについてのあり方や考え方について、職員間で考えていきたい。 | | |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> | ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | <input type="radio"/> | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない |
| 66 | 職員は生き活きと働けている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 68 | 職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない |